



2017 年 11 月 20 日

BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、 11 番からスタート後、大きく順位を落とすことなく 13 位完走 2017 AUTOBACS SUPER GT Rd.8 Motegi GT Grand Final

ビー・エム・ダブリュ株式会社(代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル)が、コラボレーション・パートナーとしてサポートする BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、11 月 12 日に開催された 2017 年 SUPER GT 選手権第 8 戦の決勝において、13 位でフィニッシュした。

また、11 月 11 日(公式予選)および 12 日(決勝)の両日、日本初となる DTM デモンストレーションランが行われ、最終戦を盛り上げた。デモンストレーションランでは、ドイツの人気レースであるドイツツーリングカー選手権(DTM)に参戦する BMW M4 DTM、Audi RS5 DTM、Mercedes-AMG C 63 DTM の 3 車種 3 台に加え、SUPER GT GT500 クラスの現行車両であるレクサス LC500、Honda NSX-GT、日産 GT-R も参加した。デモンストレーションランでは、BMW Team RMG のアウグスト・ファルプス選手が BMW M4 DTM のドライブを担当した。

公式練習

2017 年シーズンを締め括る第 8 戦予選日は、曇天のスタートとなった。最終戦らしく初冬の寒さを感じさせるコンディション下で練習走行が開始された。Studie BMW M6 はミューラー選手のドライブでコースインし、セッション前半は、ツインリンクもてぎにマッチしたセットアップを探す作業に集中した。準備したメニューを消化したチームは、セッション残り 30 分でミューラー選手にコールし、ピットに戻ったミューラー選手は、マシンを荒選手に託した。荒選手はセッション終了までマシンセットアップとタイヤを確認後、マシンをピットへと戻した。

公式予選 Q1

Q1 はタイムスケジュールどおり 14 時にスタートした。午前のセッション開始時にサーキット上空を覆っていた雲は姿を消し、快晴の下、荒選手のドライブで Q1 のセッションが開始された。普段はタイヤ温存の為、コースオープン後のウェイティングを選択するチームだが、今回はタイヤのウォームアップを重視し、コースオープンから 1 分と待たずに Studie BMW M6 を送り出した。荒選手は、アウトラップ後 4 周にわたってタイヤを暖め、計測 5 周目にアタックを開始した。最初はその時点で 7 番手の 1' 47.729 を記録し、続く 6 周目は 48 秒台を記録した。Q2 への進出確実と予想したチームは、タイヤ温存の為にマシンをピットに呼び戻し、このセッションを 8 番手ポジションで終えた。

公式予選 Q2

Q2 もオンタイムでスタートし、ドライバーはミューラー選手が担当した。ミューラー選手もタイヤウォームアップを重視して、コースオープンと同時にコースインした。アウトラップから 3 周タイヤを暖め、計測 4 周目にアタックを開始した。1' 47.838 を記録し、11 番手ポジションで Q2 を終えた。

決勝

第8戦の決勝日は快晴の中行われた。決勝に先立って実施された20分間のウォーミングアップでは、マシンの感触、タイヤの印象共に良く、チームはポジティブに決勝に臨んだ。第8戦決勝は11番手から荒選手のドライブでスタートした。クリーンなスタートを決めたが、1コーナー直後のストレートで後続車に先行され、ポジションを12番手に落とした。レースラップのペースは良いものの、ストレートスピードが伸びず Studie BMW M6 のレースはその後、前を塞がれ膠着状態となり、序盤は12番手ポジションで我慢を強いられる展開となった。

チームは、この状況を打開すべく、ピットタイミングの変更を決断した。ウォームアップ走行の結果から、タイヤ無交換を決定し、20周目を走行中の荒選手にピットインをコールした。

ミューラー選手を乗せた Studie BMW M6 は、給油を終えピットアウトするが、リスタートから20m 走った時点で、エンジンがストールしてしまう。全電源オフのリセット作業で再始動したが、タイヤ無交換で得たアドバンテージを全て失い、大幅なタイムロスとなってしまった。

ミューラー選手は、無交換でグリップが落ちたタイヤで奮闘したが、ステイント前半は先行する遅いマシンにポジションアップを阻まれた。後半はグリップが著しく落ちたタイヤでオーバーテイクを許したが、スタート時から大きく順位を落とすことなく、13位完走でレースを終えた。

鈴木康昭 チーム代表兼監督

「1年間応援ありがとうございました。最後まで本当に苦しいシーズンでしたが、皆さまに熱い応援をいただけたことに心より感謝しております。今日のレースに関しては、荒がファーストステイントでタイヤを極力摩耗させないように頑張ってくれて、セカンドステイントのミューラーは、無交換でグリップが落ちたタイヤで頑張ってくれました。しかし、上位のチームとは歴然とした差があった事を痛感しています。昨年、夏場にほぼ走れないなど苦しんでいた状況を考えると、今年1年、確実に進化したと感じていますが、同時にまだ道半ばだということも実感した1年でした。」

ヨルグ・ミューラー選手

「今日はなかなかスピードに乗れず、今週末はベストなリザルトではありませんでしたが、このチームのメンバーやメカニックなどは大変素晴らしく、今シーズンは日本でのレースをととても楽しみました。来年もまた日本で戦って、チャンピオンシップを狙えたらと思っています。1年間応援本当にありがとうございました。」

荒聖治 選手

「今回のもてぎ戦は本当に苦しいレースでした。決勝に適したタイヤだと思っていましたが、思うようにペースが上がらず、また周りも落ちて来なかった事で順位が上がらず、悔しいレースになってしまいました。シーズンを通しては、表彰台に上がる事も出来ず、厳しい一年だったと思います。何とかこのチームに勝利をプレゼントしようと頑張っていただけに、それが出来ずに残念でした。とは言え、この素晴らしいチームと一緒に走れて、充実した1年を送る事が出

来、感謝しています。皆さま、1 年間応援頂き本当にありがとうございました。」

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター:フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 9:00-20:00 年中無休

BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:

BMW Japan Corp. 広報室: 03-6259-8025 (企業広報)